



- 危険有害性情報 : ・水生生物に非常に強い毒性  
 ・長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性
- 注意書き 安全対策 : ・使用前に取扱説明書を入力し、すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 ・環境への放出を避けること。
- 応急措置 : ・漏出物を回収すること。
- 保管 : ・記載なし
- 廃棄 : ・内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

### 3.組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別 : 単一製品
- 化学名又は一般名 : カチオン性4級ポリアミン
- 化学式又は構造式 :  $C_3H_5ClO.C_2H_8N_2.C_2H_7N)_x$

成分 [CAS 番号]/[化審法番号/安衛法番号]	濃度又は濃度範囲、%
ポリエチレンポリアミン / 42751-79-1	50%以上
水 / 7732-18-5	50%以下

GHS 分類に寄与する成分 [CAS 番号]/[化審法番号/安衛法番号]	濃度又は濃度範囲、%
記載なし	

- 危険有害成分に関する情報 :  
 記載なし

- その他の成分情報 :  
 記載なし

### 4.応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のある場所へ移動し安静を保つ。呼吸しやすい姿勢で休息し、気分が悪い時は直ちに医師に連絡する。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに水と石鹸で付着した製品を完全に洗い流す。気分が悪い時は、医師に連絡する。汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な水で数分間洗浄した後、眼科医に化学名を伝えて手当を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に化学名を伝えて手当を受ける。水で口内だけをすすぎ、無理に水を飲ませて吐かせてはならない。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 発赤やかゆみを生じる場合がある。
- 応急措置をする者の保護に必要な注意事項 : データなし
- 医師に対する特別な注意事項 : データなし

---

## 5.火災時の措置

- 適切な消火剤 : 大量の水、炭酸ガス、泡、粉末などが使用できる。
- 使ってはならない消火剤 : データなし
- 火災時の特有の危険有害性 : 直ちに火元の燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。加熱により容器が爆発するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

---

## 6.漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業者は適切な保護具を着用し、眼・皮膚への接触を避ける。多量の場合は関係者以外の立入りを禁止して、盛土で囲って流出防止を図る。
- 環境に対する注意事項 : 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防いで、河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
- 回収・中和 : 少量の場合は、水を使わずに布・紙で直接拭き取るか、おがくず・砂等をまぶしてから空容器に回収する。多量の場合は、乾燥した土、砂や不活性な不燃材料に吸収させ、あるいは防水シートで覆った後、密閉可能な空容器に回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 床面に残ると水に濡れて滑る危険性が高いため、きれいに処理する。床の滑りが取れない時には、おがくず・砂等をまぶして布・紙でよく拭き取った後に、多量の水でよく洗い流す。
- 二次災害の防止策 : 濡れた床面はよく乾燥させる。

---

## 7.取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 第 8 項『設備対策』を参照。  
(局所排気・全体換気)

安全取扱い注意事項	: 使用前に取扱説明書を入手する。すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。安全眼鏡、ゴム手袋等の保護具を使用する。取扱い後は手洗い、洗顔、うがい等を十分に行う。
接触回避	: 第10項を参照。
保管	
安全な保管条件	: 保管温度は5℃以上、35℃以下が望ましい。使用後は容器の口を開放したままにせず、通気の良い屋内で密封保管する。長時間放置しておく、液が分離することがあるので、その際は十分に攪拌してから使用する。
安全な容器包装材料	: 保管容器はSUS、FRP、PVC、PEが好ましい。

## 8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定なし
許容濃度	: 日本産業衛生学会勧告値 : 設定なし : ACGIH : 設定なし
設備対策	: 通気が良くない屋内作業場所の場合は、全体換気装置を設ける。
保護具	適切な保護具を着用すること。取扱い後はよく手を洗うこと。
呼吸用保護具	: マスクを着用すること。
手の保護具	: ゴム手袋を着用すること。
眼,顔面の保護具	: ゴーグル式安全眼鏡を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	: 適切な保護衣を着用すること。

## 9.物理的及び化学的性質

物理状態,色	: 黄色透明粘調液体
臭い	: わずかにアミン臭
融点/凝固点	: ほぼ水と同様(沸点)
沸点、初留点/沸騰範囲	: データなし
可燃性	: データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: データなし
引火点	: なし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: 4~7
動粘性率	: 40~6000mPa・s
溶解度	: 水に可溶
n-オクタノール/水分分配係数	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/または相対密度	: 1.1~1.2
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし

## 10.安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の取り扱い条件では安定
危険有害反応可能性	: 通常の取り扱い条件では安定
避けるべき条件	: 高温、多湿。
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: データなし

## 11.有害性情報

急性毒性	(区分に該当しない)ラット LD50 値が 2000mg/kg 以上である情報に基づき、JIS 分類基準の区分に該当しない(国連分類基準の区分 5 又は区分に該当しない)に判定した。
経口 (LD <sub>50</sub> )	: >2000mg/kg/経口/雌ラット
経皮 (LD <sub>50</sub> )	: データなし
吸入 (LC <sub>50</sub> )	: データなし
皮膚腐食性/刺激性	: (分類できない)データなし。 経験的に長時間、製品を皮膚に付着させるとカユミを感じたり、赤斑を生じる場合がある。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: (分類できない)データなし経験的に長時間、製品が目に着した状態にさせると、場合により角膜の損傷や、カユミを感じたり赤斑を生じることがある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: (分類できない)データなし
生殖細胞変異原性	: (分類できない)ヒト生殖細胞変異原性を判定できるデータなし。 陰性(Ames 試験;細菌を用いる復帰突然変異)
発がん性	: (分類できない)データなし
生殖毒性	: (分類できない)データなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: (分類できない)データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: (分類できない)データなし
誤えん有害性	: (分類できない)データなし

## 12.環境影響情報

### 生態毒性

水生環境有害性	: 【急性有害性】(区分 1) 【長期間有害性】(区分 1) 分解性および生体蓄積性に関する信頼できるデータがなく、慢性毒性を除外することができないと判断した。
(急性有害性)	: 0.34mg/L/96hr/ヒメダカ
(長期間有害性)	: データなし
残留性・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし

## 13.廃棄上の注意

残余廃棄物	: 工場内の基準に従って焼却処分するか、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理する。焼却処理を行う場合は、アフターバーナー及びスクラパー付きインシナレーター中で 800℃以上の温度で焼却する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。容器は清浄にして、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

## 14.輸送上の注意

国際規制 (国連番号)	: 3082 (環境有害物質(液体))
(国連分類)	: クラス9 (その他の有害物質)、容器等級Ⅲ
海洋汚染物質	: 該当する
MARPOL73/78 附属書Ⅱ 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	: 該当なし
輸送又は輸送手段に関する特別安全対策	: 海上輸送及び航空輸送においては、IMO/IMDG 及び ICAO/IATA の国際危険物輸送規則に従って輸送する。容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積みこみ、漏洩及び荷崩れ防止を確実にを行う。輸送時には雨に濡れないようにする。
国内規制がある場合の規制情報	: 国連分類クラス 9(その他)の国連番号(UN)3082「環境有害物質(液体)」として、船舶安全法及び航空法の規定に従って輸送する。なお、国内においては陸上輸送及び鉄道輸送では特別な輸送上規定に該当しない。
応急措置指針番号	: 該当なし

## 15.適用法令

化審法(特定化学物質等)	: 該当なし
消防法(危険物)	: 該当なし
労働安全衛生法(表示・通知対象物)	: 該当なし

労働安全衛生法(特化則・有機則)	: 該当なし
化学物質排出把握管理促進法(PRTR)	: 該当なし
毒物及び劇物取締法	: 該当なし
危険物船舶運送及び貯蔵規則(危規則)	: 環境有害物質(急性 1)
海洋汚染防止法	: 環境有害物質(急性 1)
航空法	: 環境有害物質(急性 1)
大気汚染防止法	: 該当なし
水質汚濁防止法	: 該当なし
オゾン層保護法	: 該当なし
化学兵器禁止法	: 該当なし

---

## 16.その他の情報

### 引用文献

- [1] 日本食品分析センター、試験成績書「雌ラットを用いた急性経口毒性試験」、2006、自社データ  
 [2] 日本食品分析センター、試験報告書「変異原性試験、2006、自社データ [3] 日本食品分析センター、試験報告書「魚類急性毒性試験(ヒメダカ) [OECD TG203 法]」、2009、自社データ

その他原材料の毒性情報については、製品評価技術基盤機構(NITE)の公開情報及び原材料メーカーからの情報を引用した。

### 分類法

JIS Z 7252-2019「GHS に基づく化学品の分類方法」、JIS Z 7253-2019「GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」を参照して分類区分した。

---

※記載内容については現時点で入手した資料に基づいて作成しておりますが、記載のデータおよび評価については必ずしも十分ではありませんので、取り扱いには注意して下さい。なお、注意事項等については通常の取り扱いを対象にしたもので、特別な取り扱いをする場合には、さらに用途・用法に適した安全対策を実施のうえ、お取り扱い願います。